

二輪ライダーの運転行動と安全意識に関する研究

－自動二輪と原付の比較－

岩倉 直也

本研究の目的は、二輪の中でも特に自動二輪と原付の比較に焦点を当て、両者の運転行動や安全意識に違いがあるのかを検討することであった。また、違いがあるとすれば、それらの違いはいかなる要因で生じるのかについても明らかにすることを目指した。

まず調査 1 では、無信号 T 字交差点における二輪の右左折行動を観察・ビデオ撮影し、車格間で実際の運転行動に違いがあるのかを調査した。その結果、いくつかの運転行動において違いがみられ、自動二輪ライダーの方が原付ライダーよりも有意にヘルメット着用率と合図提示率が高かった。また、交差点 30m 手前までに合図を出すライダーの割合と、左折時における確認回数も有意に多いという結果となった。

調査 1 での「自動二輪ライダーと原付ライダーの間には運転行動に違いがある」という結果を踏まえ、調査 2 では、Reason ら (1990) の開発した運転行動質問紙 : DBQ をイギリスの Elliott ら (2007) が二輪用に改編した MRBQ (二輪運転行動質問紙) の日本語版を作成し、自己報告による二輪ライダーの普段の運転行動においても両者に違いがみられるかについて検討した。同時に、免許更新時などにも利用される質問紙である SAS592 (大塚ら, 1992) を用いてライダーの安全運転態度を測定し、さらに所持免許や経験年数、運転頻度などを問うフェースシートへの回答も合わせて行い、調査 1 では明らかにすることが出来なかった心理的な要因についても検討することを目指した。その結果、日本語版 MRBQ においても英語版と同じく、「交通エラー」「安全用具の使用」「操作エラー」「危険行為」「スピード違反」の 5 つの主成分が抽出され、二輪ライダーの不安全運転行動のタイプが明らかとなった。それぞれの主成分得点を自動二輪ライダーと原付ライダーで比較すると、「安全用具の使用」、「操作エラー」、「危険行為」において自動二輪の方が有意に得点が高い結果となった。また、SAS592 における安全運転態度の得点に関しては、両者に差はなかった。さらに、ライダーの事故・違反回数と MRBQ の 5 成分に影響を与える要因を明らかにするための分析を行った結果、自動二輪ライダーでは走行距離が多いほど、あるいは操作エラーが少ないほど違反回数が少ないという結果となり、原付ライダーに関しては走行距離および危険行為が多いほど事故回数も多く、安全用具の使用および安全運転態度が高いほど違反回数が少ないという結果となった。また、原付に乗ってはいるが自動二輪への乗り換えを希望する「自動二輪志向性」を持つライダーは、事故回数・スピード違反・安全用具の使用においてそれぞれ高い得点を示した。さらに、四輪免許を持たない原付ライダーの方が安全用具をより多く使用するという結果となった。

以上の結果から、自動二輪ライダーと原付ライダーでは安全運転態度に差はみられないが、犯しやすい不安全運転行動のタイプは異なり、さらに現在乗っている車格の違いだけでなく、自動二輪志向性の有無によっても運転行動に違いがみられること、また運転行動の違いに対し、ライダーの心理的要因が影響を与えることは確認された。ただし、乗っている車格の違いによる物理的要因が与える影響についても否定できず、両方の要因が互いに影響し合っていることが示唆された。(応用行動学・ボランティア行動学)